

特集

2

よりよい社会づくりに

つながる学び

共生社会を目指す 教材開発の 取り組み

パラリンピック教育のための教材 [“I’m POSSIBLE” 日本版] が
2017年4月に全国約21,000の小学校に無償で届けられました。
教材開発への参画の背景と概要を報告します。

教材の名称“I’m POSSIBLE”には、「不可能 (Impossible) だと思えたことも、ちょっと考えて工夫さえすれば、何でもできるようになる (I’m possible)」という、アスリートたちが体現するメッセージが込められています。

「よりよい社会づくりに
つながる学び」を目指して

ベ ネッセこども基金は、「よりよい社会づくりに
つながる学び支援」を活動の柱の一つとして、
さまざまな取り組みを進めています。

よりよい社会を実現するためには、子どもたちが、
一人ひとりの個性やよさを生かして、地域やコミュニ
ティーに主体的に関わり、社会をよりよくしてい

員としての役割を果たせるようになってほしいと考
えています。そして、それにはさまざまな立場や価値観
の違いを超えて相互理解を深め、協働していく力が必
要です。

2020年をその学びのためのよい機会と捉え、教材の
開発に参画させていただきました。

【“I’mPOSSIBLE” 日本版】教材内容

2016年度は4ユニットを開発。2020年まで毎年数ユニットを開発し、順次提供していく予定。



教師用ハンドブック

【“I’mPOSSIBLE”日本版】の概要と基礎的な情報をまとめた資料。教師が授業を行う上での参考資料として活用するもの。

教師用指導案

各授業の進め方や指導の案を記載した資料。授業の目的、展開の仕方、準備物や他の資料の参照先などをまとめている。クラスの状況や児童数に応じて、適宜アレンジして使うこともできる。

児童用ワークシート

授業で児童が使用するワークシート。座学や実技を通しての学びや感想、宿題などを書き込めるようになっている。

教材データ／参考映像 DVD

本プログラムの教材データと映像資料が入ったDVD。

【教材データ】

各教材のPDFデータが入っている。

【映像資料】

授業で使用する競技や選手の映像と、教師が実技の進め方を確認できる参考映像が収録されている。



授業用シート

授業の際、教室で児童に見せる資料で、スライドのデータと印刷した紙芝居形式のものがある。教室の環境に合わせてどちらかを使用する。児童の興味や関心に応じて、説明する順番を替えたり、内容を割愛したり、自由に使用できる。

教師用授業用ガイド

「授業用シート」の補足情報がまとまった教師用の資料。「授業用シート」の各ページで伝えたいポイント、補足情報、児童への声かけ例などが記載されている。



NEWS

ベネッセこども基金の教材開発の協力に対し、IPC（国際パラリンピック委員会）から感謝状をいただきました！

教材を使った先生、子どもたちの声

2017年4月、東京都東久留米市立神宝小学校6年1組で、今回開発された教材を使って、2つの授業が実施されました。



デジタルのスライドで授業を展開。紙芝居型の資料を黒板に貼ってまとめをしました。



子どもたちの経験やこれまでの学習を考慮しながら、クイズ形式で学びました。



学習した内容は、一人ひとりワークシートにまとめます。すべての授業にワークシートが用意されています。



シットリングバレーボールの体験。円陣パスのラリーをし、チームごとに回数を競いました。

子どもたちの声

知らないことばかりだったけれど、今日の授業でよくわかりました。私は車いすバスケットがやってみたいです。誰もが楽しめる新しいスポーツができるといいなと思いました。

女子児童

パスを続けるのは難しかったけれど、夢中になってできたので楽しかったです。パスを続けるには、手の強さや座り方がポイントになるのかなと思いました。

男子児童

授業者 石塚智弘先生

子どもたちも、学んでいく中で、障がいのあるなしに関わらず、いろいろな人がいるということを意識できるようになってきています。そこからさらに進んで、個性を認め合って生きていくことの大切さを伝えていきたいですね。

授業をするにあたって、教師がまとめた知識を持つことはとても難しいので、映像資料や情報が充実しているのはとてもありがたいです。教師用のガイドのミニ知識をうまく使い、今までの子どもの経験値などと合わせていくと、密度の濃い授業ができると思います。

CLOSE UP

【“I’mPOSSIBLE” 日本版】の開発と一緒に進めた、日本財団パラリンピックサポートセンター推進戦略部プロジェクトマネージャー マセソン美季さんに、教材制作にかけた思いをお聞きました。

「障がい者」への意識を子どもたちから変えたい

日本とカナダを往復することが多いのですが、日本に帰ってくると「障がい者」ということを意識させられます。車いすというだけで遠巻きにされる事もあれば、スポーツをただで過剰に感動されたり、特別に扱われている空気を感じます。現役の選手たちのことは、勝負にこだわるアスリートとして見てほしいし、障がいのある人を見かけて、「大丈夫かな」と感じたら、気軽に声をかけ、必要な時にスマートに手を貸してくれる人が増えることを期待しています。

2020東京パラリンピックをきっかけに、障がいのある人への意識や行動が、子どもたちから変わることを目指しています。パラリンピックについて学び、理解し興味を持って応援に行くことで、「選手のスポーツする姿はカッコいい！」と感じ、競技場を出た後にも自然に意識が向けば、障がい者に対する認識が変わり、社会を変えていけると思うのです。

日本版は、単に国際版を翻訳したものではありません。国際版のエッセンスを生かしながら、日本の教育現場に合わせて、教材の仕様、構成などを工夫しました。先生方が使いやすく、子どもにとってもわかりやすく、楽しく学べる内容・展開の仕方がないかと、ベネッセこども基金の皆さんを含む開発チーム全員で知恵を絞りました。

現場の先生の声で、より魅力的な教材に

「現場の教員の声を反映させた教材」にするために、制作途中で、小学校で模擬授業をしていただくというのはチームの総意でした。3学期開始後すぐに模擬授業をしていただかなければ間に合わない状況で、冬休みに入る前に、無理なお願いを聞いていただける

学校・先生を探し、13時間の時差の中、電話で交渉するのは至難の業でした。夜中でも明け方でも連絡が取れるように対応したため、年末年始は枕元に教材の資料を一式置いたまま寝ていました。選手時代と同じか、それ以上のアドレナリンに支えられて完成した教材です（笑）。

この結果、さらに子どもの興味を惹く素材に変えたり、授業時間（45分）の中で進めやすい内容に調整するなど、完成度を高めることができました。

メンバー全員が経験やノウハウを生かして

教材を手にとった先生方が「至れり尽くせりの教材ですね」と声をかけてくださった時は、努力が間違っていなかったと再確認でき、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。また、体験授業の後に子どもたちから強いリクエストがあり、予定より授業数を増やして、シッティングバレーに取り組んだという話もお聞きし、パラスポーツの可能性を感じることができました。

今回の開発は、チームのそれぞれが今までの経験やノウハウを出しきって進められたと思います。ベネッセこども基金の皆さんは、制作工程を知らない私たちに、「いつまでにこれをすべし」と具体的にわかりやすい指示を出してくださっただけでなく、時間や制作費用に制限がある中でも、決して妥協せず、最後までアイデアを出し続けこだわりを持って進めてくださいました。

引き続き、第2弾の開発にも、チーム一丸となり取り組んでいきたいと思ひます。



2017年2月21日 記者発表で教材の説明をするマセソン美季さん



マセソン美季さん

体育教師を目指していた東京学芸大学1年生のとき、交通事故で脊髄を損傷し下半身不随となり、車いすでの競技を始める。長野パラリンピックのアイススレッジ・スピードレース金メダリスト。大学卒業後、障がい者スポーツ指導を学ぶため米国に留学し、長野パラリンピックで

出会ったカナダのアイススレッジホッケー選手ショーン・マセソンさんと再会し結婚。現在は2児の母として、カナダで生活しながら、日本国内外におけるパラリンピックムーブメントの推進事業や教育プログラム開発などを担当している。